

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05678

研究課題名（和文）域圏論の視点による中国古代地域社会像の構築

研究課題名（英文）A construction of image of local community in Ancient China by area studies

研究代表者

関尾 史郎（SEKIO, SHIRO）

新潟大学・人文社会科学系・フェロー

研究者番号：70179331

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、出土史料を用いながら、中国古代史における地域社会像を構築することを目的とする。出土史料のなかでも、墓に埋納された文物（喪葬用文物）に注目し、その分布状況や具体的な内容などを手がかりとしながら、喪葬文化圏の解明につとめた。またフィールドとして、中国世界の西北部に位置する河西地域を取り上げた。

河西地域については、中央の為政者・知識人から一つの「地域」として見られていたが、喪葬用文物の分布状況から見ると、東部とそれ以外では大きな違いが見られた。またそれ以外の地でもおおよそ小地域ごとに内容の違いが見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「地域」をめぐる問題はすぐれて現実的な課題である。しかし「地域」という概念は学術的にはあまりにも多義的であって、理解は容易ではない。本研究は、行政単位のような即自的で可視的な地域ではなく、文化圏というアモルファスで不可視的な地域の剔抉を目ざした。

この可視的な地域と不可視的な地域は全く無関係というわけではなく、重なることもあるという複雑な関係にあるが、文化圏に着目した本研究の成果は、可視的な地域を重視しがちな「地域」論を相対化するための方法としての意義を有している。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is construction of image of local community in Ancient China by using excavated historical materials, especially buried items in tombs. We notice distribution of buried items and concrete contents, make clear the cultural area of buried items. We select the He-Xi province as a field of our study.

In Ancient China many governors and intellectuals regarded the He-Xi province as a single area. However, this area can be divided an eastern area and an another area. And this another area can be divided again more little areas through buried items.

研究分野：中国古代史

キーワード：域圏論 中国古代史 地域社会像 河西地域 画像磚 鎮墓瓶 厚葬薄葬

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 「地域」という概念は、行政単位など即自的で可視的な空間のみならず、アモルファスで不可視的な空間をさす場合もあって、きわめて多義的に用いられる。それは一般名詞としてのみならず、学術用語としての「地域」概念にも当てはまる。

(2) 歴史研究なくなく中国古代史研究でも、「地域」や「地域社会」という概念にもこのような傾向を認めざるをえないが、多義的であること自体に無自覚で、それが問題を深刻なものにしている。ただ概して言えば、即自的で可視的な空間を「地域」として剔抉する傾向が強いように思われる。しかしそれは、当該の時代の為政者や知識人の見方を追認したに過ぎず、それ以上ではない。これに対して、アモルファスで不可視的な空間を「地域」として把握しようとする試みも始まっているが、なお一つの潮流になっているとはいいがたい現状にある。

2. 研究の目的

(1) 前項(2)で指摘した研究状況を克服し、アモルファスで不可視的な空間の歴史的特質を解明することを目的とする。

(2) このような「地域」としては経済圏や文化圏などが考えられるが、その範囲や構造を明らかにするためには、文献史料(編纂史料)ではなく、出土史料(一次史料)の読解が必須であり、その前提としてデータの収集と整理(データベースの構築)が不可欠な作業となる。したがってこの作業自体も本研究の重要な目的である。

3. 研究の方法

(1) 具体的なフィールドとして、中国世界の西北部にある河西地域(現在の甘粛省の西部にほぼ相当)を選択した。この地域は中国世界の外部との経済・文化交流が盛んで、ヒト・モノ・情報の動きが顕著であるという特異性がある。したがって、不可視的な「地域」とは、国境に制約されない越境性を本質としていることを示すことも可能になる。

(2) 史料の出土状況に鑑み、「喪葬文化圏」という観点で不可視的な「地域」を指定できると考えた。河西地域では各地で多数の古墓が発見されており、墓内からは多種多様な文物が出土しているからである。時代幅は魏晉・五胡十六国時代としたが、それはこの時代の古墓が数多く発見されているからである。

(3) 「喪葬文化圏」という概念を史料的に成立せしめるのは、墓の構造や規模、さらには副葬品である明器の組合せなどよりも、むしろ、墓の各所に配された埴画・壁画、墓室に埋納された陶製の鎮墓瓶とその銘文、帛・簡牘・紙・石など多様な書写媒体に書かれた(刻された)随葬衣物疏・名刺・墓券・墓誌・柩銘などである。

(4) (3)に列挙したような出土文物を「喪葬用文物」と呼び、その河西地域における分布状況や各種文物の組合せ、さらには文物ごとの具体的な特徴比較などの作業を通じて「喪葬文化圏」の解明に取り組んだ。

(5) (4)の作業を円滑にすすめるためには、各種文物ごとのデータベースが不可欠であるため、研究を進めながら、データベースの構築にも取り組んだ(このうち、埴画・壁画など画像資料(ただし木板画を除く)のデータベースは、期間中に完成させることができた)。

(6) 報告を欠いたままの発掘調査やその成果も少なくないため、河西地域の博物館の参観を企画し、また発掘現場を見学した。参観した主な博物館は、敦煌市博物館・玉門市博物館・嘉峪関長城博物館・肅州区博物館・高台县博物館・張掖市博物館・金昌市博物館・甘粛省博物館などである。

(7) 本研究によって得られた成果については、研究代表者・研究分担者・研究協力者らメンバーによる打ち合わせや、メンバー以外の研究者も対象とした西北出土文献研究会の例会などで共有をはかった。

4. 研究成果

(1) 魏晉・〈五胡十六国〉時代、河西地域では東部の武威・張掖両郡ではほとんど埴画墓や壁画墓が築造されなかったのに対して、西部の酒泉・敦煌両郡では、時間差はありながらも、埴画墓・壁画墓が3世紀中頃から5世紀初頭にかけて築造されたことが明らかになった(なお酒泉・丁家閘五号墓については、従来4世紀末期から5世紀初頭の築造とされてきたが、3世紀末期から4世紀前半にかけてのものと判断)。喪葬文化のなかでも、埴画墓・壁画墓という限られた題材による結果だが、この結果は、即自的で可視的な空間である郡という行政単位ともその範囲は重なりあい、二つの空間は親和的だったことがうかがえる。

ただこれは、この地域だけの特性かもしれず、ただちに広く中国世界全域に普遍化・一般化する

ることは慎重さが求められる。

- (2) 塼画墓・壁画墓が多数築造された酒泉・敦煌両郡だが、以下のような相違点も認められる。
- 酒泉郡域（現在の酒泉市・嘉峪関市・高台县）：墓室内の壁面に、地上の現実に擬えた生活図が隙間なく描かれている反面、墓門上の門楼には、少数の神獣が描かれているにすぎない。
- 敦煌郡域（現在の敦煌市・瓜州県）：墓室内の壁面に配された生活図はごく少数だが、それに対して墓門上の門楼には、多数の神獣・神仙が描かれている。

酒泉郡域：一部の塼画墓・壁画墓では墓室内の天井や壁面上部に、西王母・東王公や伏羲・女媧といった神格が描かれていた。また伏羲・女媧は、塼画墓・壁画墓以外でも、墓主が安置された木棺の棺蓋の内側（遺体に最も近い）に描かれていた。

敦煌郡域：酒泉郡域のように、墓室内の天井や壁面上部、棺蓋などに西王母・東王公、伏羲・女媧が描かれた事例は皆無である。その反面、門楼の下部には西王母を象徴する髪飾りの勝が描かれるほか、一部には門楼の最上部に東王公とその左右に侍す伏羲・女媧を配したものがあ

(3) (2) のような現象の背景は以下のように説明できる。いち早く魏の末期、三世紀中頃に塼画墓・壁画墓の築造が始まった酒泉郡域では、棺蓋も含めて、墓室内の内部に、魂の昇仙と魄の地下での生活が二つながら表現された。墓室内に描かれた西王母は山岳状の上に座しており、その周囲を山岳が囲んでいる。これは明らかに崑崙山を示しており、死者の魂の行き先である。西王母よりは死者に近い所に描かれた伏羲・女媧は西王母から、地上から地下に降り立とうとしている死者のもとに派遣された使者の役割だったのであろう。伏羲・女媧こそが死者の魂を西王母のもとまで案内するガイドだったのである。

酒泉郡域に遅れて塼画墓の築造が始められた敦煌郡域では、魄が生活する場所という墓室の役割が低下した。墓室内の画像の減少化がそれを示している。むしろ墓室内には供台が設けられたり、墓主夫婦を描いた画像塼が一点だけ墓室の後壁に立てかけられたりしているので、遺族が祭祀を営む空間だったと考えられる。墓門上の門楼だけは神獣や神仙が幾層にもわたって描かれているので、酒泉郡域のそれよりも壮麗になったが、一点一点の画像塼に格別の意味はなく、その意味では形骸化が進行していたとも解釈できる。

(4) (3) と関連するのは、塼画墓であるか否かを問わず、敦煌郡域では多くの鎮墓瓶が墓に埋納されたことである。鎮墓瓶とは、器腹に天帝が死者の安寧を地下の諸神に指示する文言（銘文）を有する小さな陶製の壺で、後漢時代に中原地域で始まった習俗である。このことは、敦煌という小さな地域社会における信仰心の高さを示すものとして考えられてきた。しかし銘文は他地域のものよりもはるかに簡略化されていて、天帝も地下諸神もそこには登場しない。ようするに、天上世界と地下世界を取り結ぶ関係性が稀薄化されているのであって、またそのことによって敦煌では広汎に普及できたのではないかと推測される。

(5) このことは他の点からも傍証される。塼画墓・壁画墓が築造されなかった武威郡域（現在の武威市）や酒泉郡域では、魏晋・五胡十六国時代を通じて、随葬衣物疏や墓券（ほとんどが簡牘）、柩銘（帛）が作成されたが、敦煌郡域では発掘調査が精力的に行なわれたにもかかわらず、随葬衣物疏や墓券の出土例は報告されておらず、わずかに柩銘が一点知られているだけである。これらは死者の安寧を天帝や地下諸神に祈願するものであるが、そのような意識は敦煌にあっては稀薄だったということである。

(6) したがって敦煌の塼画墓の門楼を埋め尽くしているかのような神獣・神仙の図像にも(3) のような解釈が生まれるのだが、ここには『宋書』符瑞志に記された、儒教思想で符瑞とされていたものも多く含まれているので、従来のように、これらをもっぱら道教信仰から説明するのは正しくない。

(7) では酒泉郡域と敦煌郡域の違いの由来はどこにあるのか。魏では曹操以来一貫して薄葬が推進され、河西地域を含む涼州の刺史（徐邈）も厚葬を禁止している。涼州の州治武威とその隣の張掖両郡で魏になると塼画墓・壁画墓が営まれなくなったのはそれが大きいと思われる。酒泉で塼画墓の築造が始まったのも、このような刺史が退任してしばらく経ってからのことである。しかしそれが長期にわたって持続しなかったのも地方長官である酒泉太守が塼画墓・壁画墓の築造を放置しなかったからであろう。

そしてそれから二世代ほど遅れて塼画墓の築造が始まった敦煌郡域だが、敦煌の墓群を「公共墓地」と見る見方があるように、地方長官が直々に墓域の設定に関与した可能性がある。したがってそこに築造された塼画墓は、もはや魂と魄の住処としての空間ではなく、死者の遺族が祭祀を行なう空間に変貌を遂げたのではないかと。墓室内部の変化はこのように説明できる。また門楼の神獣（神仙もか）も儒教の符瑞思想から選び出されたとすれば、地域社会における儒教イデオロギーの浸透を物語っていることになる。

(8)武威郡域では後漢時代、壁画墓がすでに築造されていた。しかし魏晋時代にはこのような壁画墓さらには磚画墓が廃れたのは(7)で述べたような理由によると考えたわけだが、それにかわって後漢末期からこの一帯では、黒白二色の磚をモザイク状に墓壁にはめ込むことが行なわれた。これは薄葬令に対応するために地域社会で編み出された工夫であろう。酒泉郡域でも磚画墓・壁画墓に次いでこのような黒白二色磚墓が築造された。

このように考えられるとすれば、不可視的な文化圏の構築についても、可視的な空間を支配する公権力との関係を捨象しては真相を把握できないということになる。

(9)しかし一方では、敦煌郡域に見られた壮麗な門楼を有する墓は中央アジアのクチャでも営まれたことがわかった。五胡十六国 時代、河西地域から中央アジアに移動した漢族によって築造されたものであろうが、このようなヒトの移動にともない、国境を超えて喪葬文化が伝えられ、文化圏が拡張していったことが明らかになった。

(10)本研究は、最新の情報を取り込みながら、膨大な研究史をも踏まえて進められてきた。アモルファスで不可視的な新しい中国古代の地域社会像を構築し、「地域」が多義的であることを示すことができた。またそれと同時に、出土史料のデータベースの構築・その積極的な利活用・さらにデータベースの公開など、多方面にわたる成果を上げることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 5
2. 論文標題 内乱と移動の世紀 4～5世紀中国における漢族の移動と中央アジア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専修大学古代東ユーラシア研究センター年報	6. 最初と最後の頁 5～28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 河西磚画墓とその時代 新城墓群の検討を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集 磚画・壁画からみた魏晋時代の河西	6. 最初と最後の頁 37～67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 22
2. 論文標題 『大唐開元礼』の“如式”“如常式”について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 173～185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 23
2. 論文標題 『大唐開元礼』礼目の再検討 収載されなかった祭祀儀礼を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明大アジア史論集	6. 最初と最後の頁 114～128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田宏美	4. 巻 なし
2. 論文標題 画像資料に見る魏晋時代の武器 河西地域を中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集 磚画・壁画からみた魏晋時代の河西	6. 最初と最後の頁 189～225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三崎良章	4. 巻 なし
2. 論文標題 魏晋時代河西の壁画墓と壁画の一面 遼陽との比較を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集 磚画・壁画からみた魏晋時代の河西	6. 最初と最後の頁 99～125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村 永	4. 巻 なし
2. 論文標題 河西各地の魏晋墓出土画像磚について 出土資料の問題点と今後の展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集 磚画・壁画からみた魏晋時代の河西	6. 最初と最後の頁 5～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 964
2. 論文標題 簡帛と紙石の世紀	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 14～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 2
2. 論文標題 《新獲吐魯番出土文献》所収, “五胡”時代公文書試探	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 絲路文明	6. 最初と最後の頁 61~74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 15
2. 論文標題 高台县古墓群発掘調査簡史 主要出土文物とその研究の紹介をかねて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 資料学研究	6. 最初と最後の頁 61~107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三崎良章	4. 巻 38
2. 論文標題 3~5世紀の河西墳墓画像に見られる「塼」について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史滴	6. 最初と最後の頁 218~199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 名刺簡をめぐる諸問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 論集 後漢・魏晋簡牘の世界	6. 最初と最後の頁 263~391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 242
2. 論文標題 唐代の礼官と礼学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 77～94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 なし
2. 論文標題 唐前半期における儀注編纂について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金子修一先生古稀記念論文集 東アジアにおける皇帝権力と国際秩序	6. 最初と最後の頁 293～329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三崎良章	4. 巻 38
2. 論文標題 墳墓画像に見られる魏晋時代酒泉地域の漢人と非漢人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育と研究	6. 最初と最後の頁 17～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 2
2. 論文標題 “五胡”時期西北地区漢人族群之伝播与遷徙 以出土資料為中心	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 絲綢之路研究集刊	6. 最初と最後の頁 81～92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関尾史郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 從 眞實看敦煌居民的本質意識 以張氏為中心	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 紀念岑仲勉先生誕辰130周年國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 450 ~ 457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 関尾史郎
2. 発表標題 内乱と移動の世紀 4～5世紀中国における漢族の移動と中央アジア
3. 学会等名 専修大学古代東ユーラシア研究センターシンポジウム「古代東ユーラシアの国際関係と人流」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江川式部
2. 発表標題 『大唐開元礼』礼目の再検討 収載されなかった儀礼を中心に
3. 学会等名 第63回国際東方学会会議「国家と儀礼 東アジアの中の日本古代文化」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 峰雪幸人
2. 発表標題 西秦政権外交考
3. 学会等名 第11届中国中古史青年学者聯誼会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関尾史郎
2. 発表標題 吐魯番文書の史料学初探
3. 学会等名 2017年中国社会科学論壇（史学）：第六届中国古文书学國際研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関尾史郎
2. 発表標題 試論五胡時代の地域與政權 以西涼政權為中心
3. 学会等名 中国魏晋南北朝史学会第12届年会暨國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三崎良章
2. 発表標題 魏晋時期甘肅高台社会
3. 学会等名 中国魏晋南北朝史学会第12届年会暨國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関尾史郎
2. 発表標題 五胡時代西北地域之伝播与遷徙 以出土資料做一試論
3. 学会等名 考古与芸術 / 文本与歴史 絲綢之路研究新視野國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 関尾史郎
2. 発表標題 ■（貌+しんによろ）眞讚看敦煌居民の本貫意識 以張氏爲中心
3. 学会等名 紀念岑仲勉先生誕辰130周年國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 江川式部
2. 発表標題 唐の弔祭と冊礼
3. 学会等名 國學院大學國史学会例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 関尾史郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 331
3. 書名 三国志の考古学 出土資料からみた三国志と三国時代	

1. 著者名 関尾史郎・町田隆吉編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 306
3. 書名 磚画・壁画からみた魏晉時代の河西	

1. 著者名 関尾史郎編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 202
3. 書名 河西魏晋・五胡 墓出土画像資料(磚画・壁画)目録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

関尾史郎のブログ http://sekio516.exblog.jp

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	町田 隆吉 (MACHIDA TAKAYOSHI) (50316923)	桜美林大学・人文学系・教授 (32605)	
研究分担者	江川 式部 (EGAWA SHIKIBU) (70468825)	明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員 (32682)	
研究協力者	渡部 武 (WATABE TAKESHI)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三崎 良章 (MISAKI YOSHIAKI)		
研究協力者	市来 弘志 (ICHIKI HIRISHI)		
研究協力者	北村 永 (KITAMURA HARUKA)		
研究協力者	峰雪 幸人 (MINEYUKI SAITO)		
研究協力者	田 衛衛 (DEN EIEI)		
連携研究者	内田 宏美 (UCHIDA HIROMI) (50574571)	國學院大學・文学部・非常勤講師 (32614)	